

取扱説明書

AD15VT
AD30VT
AD50VT
AD100VT
AD100VTH

Ⓙ ⑤

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:
TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。

このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。

このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意（危険、警告を含む）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制（必ず行うこと）を示しています。 記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

⚠警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、
死亡や重傷を負う可能性が予想されます

- **電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。**
- **電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。**
  感電やショートの恐れがあります。
- **本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。**

- **次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。**
  ○ 電源コードやプラグが破損したとき
  ○ 異物が内部に入ったとき
  ○ 製品に異常や故障が生じたとき
  修理が必要なときは、コルグ・サービス・センターへ依頼してください。



- **本製品を分解したり改造したりしない。**



- **修理、部品の交換などで、取扱説明書に書かれていること以外は絶対にしない。**
- **電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものをのせない。**
  電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- **大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。**
  万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- **本製品に異物（燃えやすいもの、硬貨、針金など）を入れない。**
- **温度が極端に高い場所（直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など）で使用や保管はしない。**
- **振動の多い場所で使用や保管はしない。**
- **ホコリの多い場所で使用や保管はしない。**



- **風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。**



- **雨天時の野外のように、湿気の多い場所や水滴のかかる場所で、使用や保管はしない。**
- **本製品の上に、花瓶のような液体が入ったものを置かない。**
- **本製品に液体をこぼさない。**



- **濡れた手で本製品を使用しない。**

⚠注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性
または物理的損害が発生する可能性があります



- **正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。**
- **ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。**
  ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
  本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- **外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。**
- **電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。**



- **本製品を使用しないときは、電源プラグをコンセントから抜く。**
  電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていません。



- **付属の電源コードは他の電気機器で使用しない。**
  付属の電源コードは本製品専用です。他の機器では使用できません。
- **他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。**
  本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- **スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。**
  故障の原因になります。
- **外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。**
- **不安定な場所に置かない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。**
  本製品が転倒または損傷してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **本製品の隙間に指などを入れない。**
  お客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- **地震時は本製品に近づかない。**
- **本製品に前後方向から無理な力を加えない。**
  本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがあります。データの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

＊ Valve Reactor技術は米国特許を取得しています。他国特許申請中です。（2001年7月現在）

保証規定（必ずお読みください）

本保証書は、保証期間中に本製品を保証するもので、付属品類（ヘッドホンなど）は保証の対象になりません。保証期間内に本製品が故障した場合は、保証規定によって無償修理いたします。

1. 本保証書の有効期間はお買い上げ日より１ケ年です。
2. 次の修理等は保証期間内であっても有料修理となります。
   - 消耗部品（スピーカー、真空管、電池など）の交換。
   - お取扱い方法が不適当のために生じた故障。
   - 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
   - 故障の原因が本製品以外の他の機器にある場合。
   - 不当な改造、調整、部品交換などにより生じた故障または損傷。
   - 保証書にお買い上げ日、販売店名が未記入の場合、または字句が書き替えられている場合。
   - 本保証書の提示がない場合。

   尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても、修理した日より３ケ月以内に限り無償修理いたします。
3. 本保証書は日本国内においてのみ有効です。
   This warranty is valid only in Japan.
4. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。詳しくは、サービス・センターまでお問い合わせください。
5. 修理、運送費用が製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめサービス・センターへご相談ください。発送にかかる費用は、お客様の負担とさせていただきます。
6. 修理中の代替品、商品の貸し出し等は、いかなる場合においても一切行っておりません。

本製品の故障、または使用上生じたお客様の直接、間接の損傷につきましては、弊社はいっさいの責任を負いかねますのでご了承ください。

本保証書は、保証規定により無料修理をお約束するためのもので、これよりお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

■お願い

1. 保証書に販売年月日等の記入がない場合は無効となります。記入できないときは、お買い上げ年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
2. 保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

アフターサービス

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

お客様相談窓口　TEL 03(3799)9086

●サービス・センター：
〒143-0001
東京都大田区東海5-4-1 明正大井5号営業所コルグ物流センター内
TEL 03（3799）9085

WARNING!

This Product is only suitable for sale in Japan. Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

（この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です）

輸入販売元: KORG Import Division
〒206-0812 東京都稲城市矢野口4015-2
URL:http://www.korg.co.jp/KID/

保証書

本保証書は、上記の保証規定により無料修理をお約束するものです。

型 名（ご記入ください）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

製 番（ご記入ください）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

お買い上げ日　　　年　　月　　日

販売店名

目次

はじめに

ようこそ!

このたびはVOX ValvetronixアンプAD15VT/AD30VT/AD50VT/AD100VT/AD100VTHを、お選びいただきまして、誠にありがとうございます。

本機を末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保存してください。

それでは、本機の様々な素晴しいギターサウンドをご堪能ください。

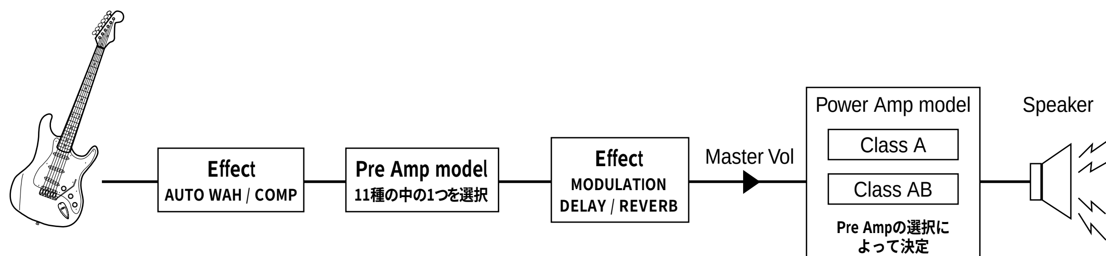
おもな特長

- 本機はValve Reactor技術を採用し、通常プリアンプで使われている小型3極真空管12AX7（ECC83）を使ったパワーアンプ回路を搭載することによって、「本物のチューブアンプ・サウンド」を作り出し、オリジナル・アンプの感触やトーンを生み出します。
- 高度なモデリング・テクノロジーによるアンプ・タイプ11種を搭載しています。往年のビンテージ・アンプや高価なハイエンド・チューブアンプなどのサウンドを手軽に呼び出すことができます。
- ハイクオリティなエフェクトを11種内蔵しています。この内7種は複合エフェクトとなっており、2つのエフェクトを同時に使用することができます。その他ノイズ・リダクションを同時に使用できます。
- アンプやエフェクトを駆使したサウンドをプログラムとしてCH1/CH2にそれぞれ保存することができます。これらはトップ・パネルのスイッチやリア・パネルに接続したフットスイッチで演奏中にも簡単に切り換えることができます（チャンネル・セレクト・モード）。また、各アンプ・タイプにつき各1種のプリセット・プログラムが用意されています（プリセット・モード）。
- マニュアル・モードを装備し、通常のギター・アンプのように使用することができます。ツマミが指している物理的な位置がそのままサウンドに反映されます。
- オプション（別売）のVFS2デュアル・フットスイッチを接続して、プログラムの切り替えやエフェクトのバイパスができます。
- パワー・レベル・コントロールを装備（AD15VTを除く）し、パワー・アンプの出力ワット数を調整することができます。マスター・ボリュームを最大にしてValve Reactorパワーアンプに負荷をかけた状態でも、サウンドを損なうことなく音量を調整することができます。
- エクスターナル・スピーカー・アウト端子を装備（AD50VT/AD100VTのみ）し、お気に入りのギター・スピーカー・キャビネット（8Ω）を接続することができます。
  AD100VTHは、スピーカーOUT端子として装備。
- エフェクト・センド/リターン端子を装備（AD100VT/AD100VTHのみ）し、外部エフェクターをループ接続することができます。

信号経路

本機に入力された信号は以下の順序で通過していきます。

「各部の名称と機能」(p.6)の説明と照らし合わせてご覧ください。



Valve Reactor技術とは?

バルブ・リアクター技術とは、VOX アンプAD60/120VTではじめて採用された技術です。

本機VOXコンボのパワーアンプを駆動するValve Reactor回路は、斬新な技術を基に作られました。音作りとトーン・シェーピングのほとんどはデジタル領域で行いますが、Valve Reactorパワーアンプは100%アナログです。ギター信号がアナログ領域であるパワーアンプ段を通過することによって、モデルとなったオリジナル・アンプの感触やトーンを作り出す上で重要な役割を果たすことになります。

Valve Reactorのパワー段は真のチューブ、プッシュ/プル式パワーアンプのミニチュア版です。これは12AX7チューブ(デュアル三極管、つまり2つの真空管を1つにしたもの)を使用し、出力トランスを搭載した真のチューブアンプと似ています。真空管を、出力トランスで直接スピーカーに接続するのではなく、アウトプット・トランスをソリッドステート部品でエミュレートしたバーチャル・アウトプット・トランスで変換し、最終出力段の回路を特殊設計したVariAmpパワー回路に接続します。これによりパワー段の出力量を最小出力から最大出力まで連続可変可能とします(AD15VTを除く)。

このVariAmpパワー回路段は完全に透明、つまり信号を変化させないので、出力されるトーンは純粋にチューブアンプのサウンドとなります。また従来のチューブアンプに見られるワイドなダイナミックレンジもそのまま保持されます。このダイナミックレンジはソリッドステートのアンプではなかなか出せない特性で、同じ出力の仕様でもソリッドステートアンプに比べてチューブアンプの方がパワフルに聞こえるのは、この特性のおかげです。Valve Reactorパワーアンプの出力は、接続されているスピーカーシステムの絶えず変化しているインピーダンス曲線を「読み取り」、この情報を真空管にフィードバックするように設計されています。この点も実際のチューブアンプと似ています。この情報によってアンプのチューブ段での動作がスピーカー負荷(インピーダンス)に応じて変化します。これもまた、真のチューブアンプのサウンドを形成する大切な要因となっています。

生き生きとしたチューブサウンドを生み出すだけでなく、モデルとなったアンプのフルチューブパワー段に独特の、様々な「回路特性」をシミュレートすることができます。この特性とは、A級、AB級、プレゼンス、レゾナンス（ロー・エンド）回路（いずれも一部チューブアンプの持つ負帰還回路に見られるもの）、パワー出力などです。このような特性（ただしユーザーが設定するパワー出力は除く）を調整することにより、アンプ・モデルの一つ一つのサウンドが忠実に再現できるのです。この点が「あのサウンドに近いけどやっぱり本物じゃない」という巷のデジタル・モデリング製品とは異なる部分です。米国特許取得済みのこのパワーアンプ技術はVOX Valvetronixアンプだけのものです。

以上、いろいろと説明してきましたが、これを証明するには実際に音を出してみることです。早速ギターを手に数々のサウンドを体験、探究してみましょう。

クイックスタート編

取扱説明書を読むのは、塗ったペンキが乾くのを待つときのように「あくび」が出てしまう人も多いでしょう。そこで、新しいアンプを一刻も早く使ってみたい人のために、このクイックスタート編を用意しました。
また本書には、Valvetronixアンプを最大限に活用する上で役に立つ内容が記載されていますので、クイックスタート編でとりあえず弾いてみてホッとしたら、必ず本書の残りをお読みください。

ヒント:「各部の名称と機能」（p.6～）にトップ・パネルとリア・パネルの図がありますので、これらを見ながら操作してみてください。

セットアップ

1. 本機の[MASTER]（マスター）ボリュームを最小レベルに設定します。

2. 付属の電源コードをリア・パネルのAC電源端子に接続してから、電源コードのもう一端をコンセントに接続します。

AD100VTHの場合: [SPEAKER OUT]（スピーカー・アウト）端子とスピーカー・キャビネットを付属のスピーカー・ケーブルで接続します。使用するスピーカー・キャビネットに合わせてOUTPUT SELECTスイッチを設定します。（→p.10）

電源コードの接続について

1）本機の電源がOFFになっていることを確認します。
2）最初に付属の電源コードを本機リア・パネルのAC電源端子に接続します。
3）付属の電源コードには、アース端子がついています。感電と機器の損傷を防ぐためにアース接続を確実に行って、コンセントに接続してください。

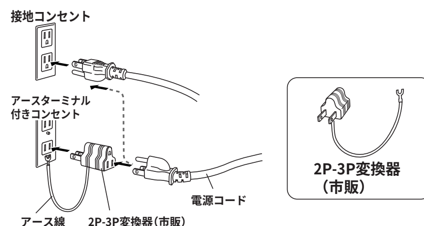
注意: 電源は必ずAC100Vを使用してください。

接地コンセントに接続する場合は、プラグを直接コンセントに差し込んでください。

注意: 電源コードは必ず付属のものをお使いください。他の電源コードを使用した場合、故障などの原因となります。

アースターミナル付きコンセントに接続する場合は、2P-3P変換器（市販）をプラグに付け、アース線を接続した後にコンセントに差し込んでください。

注意: アースターミナル付きコンセントでは、必ずアース端子を先に接続してからコンセントにプラグを差し込んでください。コンセントから外す場合は、必ずプラグを先に抜いてからアースを外してください。接続方法が分からないときは、コルグお客様相談窓口にご相談ください。



3. ギターに接続したケーブルをトップ・パネルのINPUT（インプット）端子に接続します。

4. [POWER]（パワー）スイッチをONにし電源を入れます。

5. [MASTER]（マスター）ボリュームをゆっくりと上げて音量を調整します。

ヒント: リア・パネルの[POWER LEVEL](パワー・レベル)コントロールはパワーアンプの出力レベルをコントロールします。パワーアンプの歪み量を維持したまま音量の調整が行なえます。(AD15VTを除く)

注意: 真空管が温まるまでの数秒間、音が出ない場合があります。これは故障ではありません。

プリセット・プログラムのサウンドを聞く

1. トップ・パネルの[PRESET](プリセット)スイッチを押します。
   PRESET LEDが点灯します(プリセット・モード)。
2. [AMP](アンプ)セレクターを回してアンプ・タイプを選択します。
   各アンプ・タイプの代表的なサウンドに設定されたプリセット・プログラムが呼び出され、GAIN、VOLUME、TREBLE、MIDDLE、BASSやエフェクト等の設定が自動的に切り替わります。

チャンネル・プログラムのサウンドを聞く

1. トップ・パネルの[CHANNEL](チャンネル)スイッチを押します。
   CH1またはCH2のLEDが点灯し、各チャンネルに設定されているプログラムが呼び出されます(チャンネル・セレクト・モード)。
2. [CHANNEL]スイッチを押すたびにCH1とCH2が切り替わります。

ヒント: チャンネル・プログラムには好みの音色を記憶させることができます。詳しくは「プログラムを保存する」(p.16)を参照してください。

音作りをする

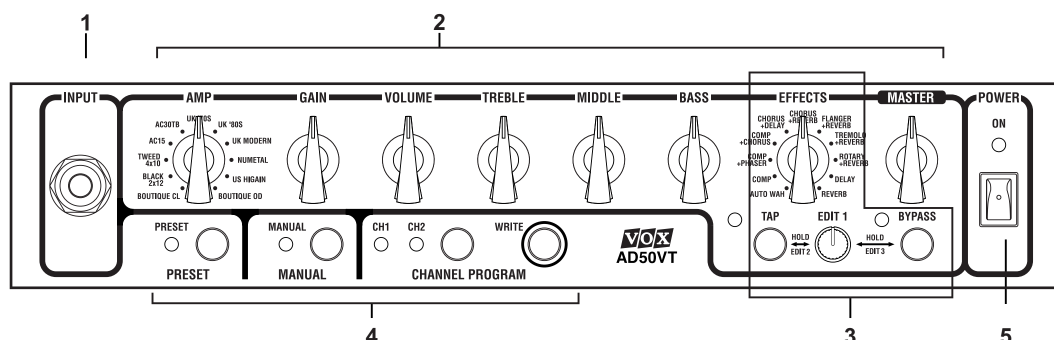
1. トップ・パネルの[MANUAL](マニュアル)スイッチを押します。
   MANUAL LEDが点灯します(マニュアル・モード)。

   ヒント: 音作りはプリセット・モードやチャンネル・セレクト・モードでもできますが、マニュアル・モードでは[EDIT](エディット)ツマミを除くすべてのツマミの位置がそのままサウンドに反映されますので、イメージ通りに音が作りやすくなります。
2. [AMP](アンプ)セレクターでアンプ・タイプを選択し、GAIN、VOLUME、TREBLE、MIDDLE、BASSなどを調整します。
3. エフェクトを使用する場合は[EFFECTS](エフェクト)セレクターでエフェクト・タイプを選択し、[EDIT](エディット)ツマミでエフェクトのかかり具合を調整します。
   CHORUSやTREMOLOなどモジュレーション系のエフェクトやDELAY/REVERBエフェクトでは、[TAP](タップ)スイッチを2回押すと、その間隔でモジュレーション・スピードやディレイ/リバーブ・タイムが設定されます。
   エフェクトを使用しない場合は[BYPASS](エフェクト・バイパス)スイッチを押して、エフェクトをバイパスします。
4. 気に入ったサウンドが完成したら、「プログラムを保存する」(p.16)を参照してプログラムとして保存します。

各部の名称と機能

本章ではValvetronixアンプのトップ/リア・パネル上のスイッチや端子類について説明します。

A. トップ・パネル



1. INPUT（インプット）セクション

ギターを接続します

2. アンプ・セクション

アンプの設定を行ないます。VOXの伝統を受け継いだ「チキン・ヘッド」の形をしたポインター（ツマミ）を採用しました。

[AMP]（アンプ）セレクター

アンプ・タイプを選びます。プリアンプ、パワーアンプの動作（A、AB級）、トーン・コントロールの特性や回路上の配置は、ここで選んだアンプのタイプに従って切り替わり、それぞれのアンプ特有の動作となります。アンプ・タイプは伝説的なVOX AC30TBXをはじめとするクラシックなチューブアンプを忠実に再現した11種類のモデルから選択します。詳細は「アンプ/エフェクトの説明」（p.19）を参照してください。オリジナル・アンプのプリアンプ回路のゲイン/トーン特性を正確に再現しただけでなく、パワーアンプの動作（A、AB級）、負帰還回路など、重要なパワーアンプ段も入念に再現しています。
プリセット・モード（PRESET LED が点灯しているとき）では、各アンプ・タイプの代表的なサウンドとエフェクトの設定を含めたプリセット・プログラムを呼び出すことができます。

[GAIN]（ゲイン）コントロール

選択したアンプ・タイプのプリアンプ・ゲインを調整します。

[VOLUME]（ボリューム）コントロール

選択したアンプ・タイプのボリュームを調整します。

[TREBLE]（トレブル）、[MIDDLE]（ミドル）、[BASS]（ベース）コントロール

高音、中音、低音の音色を調整します。選択したアンプ・タイプによって、異なった音色変化になります。「アンプ / エフェクトの説明」（p.19）を参照してください。

注意: アンプ・タイプによっては、この3つのコントロールをすべて左に回しきると、ほとんど音が出なくなる場合もあります。

注意: オリジナルのアンプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールをすべて使用しないものもありますが、それらのコントロールを無効にする代わりに、本機の3つのコントロールをすべて効果的に使用してオリジナルの音色に幅をもたせています。詳細は「アンプ/エフェクトの説明」(p.19)のを参照してください。

[MASTER](マスター)ボリューム

プリアンプからValve Reactorパワーアンプに出力するボリュームを調整します。この設定によってValve Reactorの歪み量が変化します。

注意: [MASTER]ボリュームの設定はプログラムされません。

注意: Valve Reactorの歪み量は、GAINコントロールによっても変化します。設定によっては、ほとんど歪まなくなります。

3. エフェクト・セクション

エフェクト、ノイズ・リダクションの設定を行ないます。各エフェクトの詳細は「アンプ/エフェクトの説明」(p.19)を参照してください。

[EFFECTS](エフェクト)セレクター

エフェクトのタイプを選択します。各エフェクトのパラメータは[TAP]スイッチや[EDIT]ツマミを使用して調整できます。エフェクト・タイプを変更すると各エフェクトのパラメータ設定が初期化され、エフェクト・バイパスが解除されます。

[EDIT](エディット)ツマミ

各エフェクトのパラメータを調整します。以下のような[TAP]、[BYPASS]スイッチとのコンビネーション操作により3種類のパラメータを調整します。(BYPASS LEDが消灯時)

- **EDIT1:** (スイッチを押さずに)[EDIT]ツマミを回す。
- **EDIT2:** [TAP]を押しながら[EDIT]ツマミを回す。
- **EDIT3:** [BYPASS]を押しながら[EDIT]ツマミを回す。

また、BYPASS LEDが点灯しているとき(エフェクトのバイパス時)に、[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回してノイズ・リダクションの感度を調整します。

注意: BYPASS LEDが点灯しているときは、エフェクト・パラメータの調整はできません。

[TAP](タップ)スイッチ、LED

CHORUSやFLANGERなどモジュレーション系エフェクトのスピードとDELAY(ディレイ)、REVERB(リバーブ)エフェクトのタイムを設定します。スイッチを2回押した間隔がタイムとして設定されます。設定されているスピード、タイムにあわせてLEDが点滅します。

ヒント: 曲のテンポに合った正確なタイムを設定するには、曲の拍子に合わせてスイッチを数回押してください。

ヒント: スピードやタイムは、[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す(EDIT 2)ことで調整することもできます。

注意: BYPASS LEDが点灯しているときは、[TAP]スイッチによるタイム設定はできません。TAP LEDは消灯します。

[BYPASS]（エフェクト・バイパス）スイッチ、LED

エフェクトを使用しないときはこのスイッチを押してエフェクトをオフ（バイパス）します。バイパスされているときはLEDが点灯します。

注意: BYPASS LEDが点灯しているときは、エフェクト・パラメータの調整はできません。

ヒント: バイパス中に[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを操作するとノイズ・リダクションの感度が調整されます。

ヒント: バイパスの設定はモードやプログラムを切り換えたり電源をオフにしても記憶しています。

ヒント: [BYPASS]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す（EDIT 3）ことで、エフェクトのパラメータを調整することもできます。

4. プリセット / マニュアル / チャンネル・セクション

[PRESET]（プリセット）スイッチ、LED

プリセット・モードに切り換えます。プリセット・モードは、[AMP]セレクターによって各アンプ・タイプの代表的なサウンドを呼び出すモードです。プリセット・モードのときLEDが点灯します。

[MANUAL]（マニュアル）スイッチ、LED

マニュアル・モードに切り換えます。マニュアル・モードでは、[EDIT]ツマミを除く、すべてのツマミの位置がそのままサウンドに反映されます。通常のギター・アンプと同じ感覚で本機を扱うことができます。マニュアル・モードのときLEDが点灯します。

[CHANNEL]（チャンネル）スイッチ、CH1/CH2 LED

チャンネルを選択します。選択されているチャンネルのLEDが点灯します。プリセット/マニュアル・モードのときCH1/CH2 LEDは消灯しています。このとき[CHANNEL]スイッチを押すとチャンネル・セレクト・モードに切り替わり、以前選ばれていたチャンネルが選択されます。

[WRITE]（ライト）スイッチ

新しいプログラムをCH1またはCH2に保存するときに使用します。「プログラムを保存する」（p.16）を参照してください。

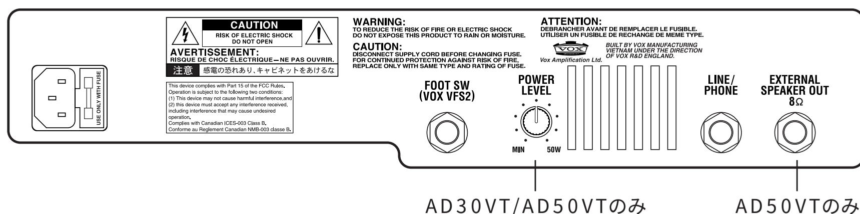
5. パワー・スイッチ

[POWER]（パワー）スイッチ

電源スイッチです。ON時はスイッチの上のランプが点灯します。

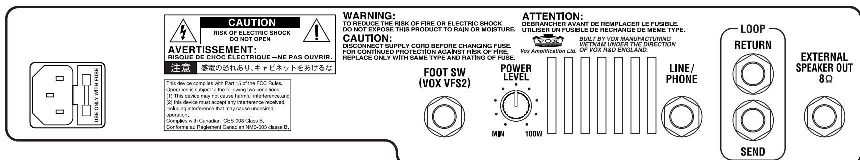
B. リア・パネル

AD15VT/AD30VT/AD50VT

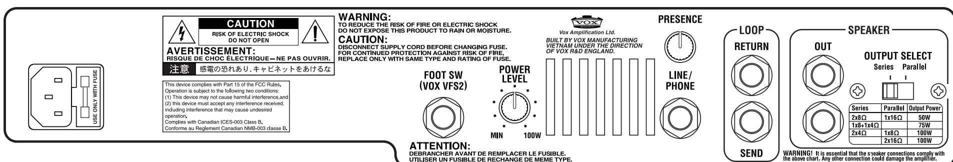


AD30VT/AD50VTのみ　　AD50VTのみ

AD100VT



AD100VTH



AC電源端子

付属の電源コードを接続します。

FOOT SW（フット・スイッチ）端子

オプション（別売）のVFS2デュアル・フットスイッチを接続して、演奏中にプログラムの切り替えやエフェクトのバイパスをします。

POWER LEVEL（パワー・レベル）コントロール

パワー・アンプの出力ワット数を調整します。

AD30VT: 0.1W以下〜30W、**AD50VT:** 0.15W以下〜50W
AD100VT/AD100VTH: 0.2W以下〜100W

注意: AD15VTには、このコントロールツマミは付いていません。
注意: パワー・レベルの設定はプログラムには保存されません。

Valvetronixアンプのパワー段のドライブを上げたときのファットで温かなサウンド（これはチューブ・アンプの傑作品に共通する音響特性）をそのまま損なうことなく、音量を様々なレベルで出力することができます。小さな部屋で演奏する場合でも、聞き手の鼓膜を傷めず、また大切な音色を損ねることなく演奏できます。

LINE/PHONE（ライン/ホーン）端子

ミキサーやレコーディング機器等へ直接出力する場合や、ヘッドホンを使用する場合に、この端子に接続します。この端子から出力される信号は、ValveReactorパワーアンプの直前から取り出し、ギターアンプのキャビネット特性が付加されます。

注意: この端子に接続すると内蔵スピーカーから音は出ません。

EXTERNAL SPEAKER OUT（エクスターナル・スピーカー・アウト）端子

ギター・スピーカー・キャビネットを接続します。

注意: 外部スピーカー端子を使用すると内蔵のスピーカーからは音は出ません。

注意: AD15VT、AD30VT、AD100VTHには、この端子は付いていません

重要: 正しく使用していただくため、以下のことを厳守してください。

a） 外部スピーカーには８Ω以外のインピーダンスのものを使用しないでください。

b） 定格入力が50ワット（AD100VTは100ワット）に満たないスピーカーを接続しないでください。この注意を無視するとスピーカーを破損することがあります。これはお勧めしません。

c） 外部スピーカーを接続するときは必ずスピーカー・ケーブルを使用してください。ギターとアンプを接続するシールド線を使わないでください。

d） ケーブルを接続するときは必ず電源をOFFの状態で行ってください。電源をONのままケーブルを抜き差しするとアンプが壊れる原因となります。

LOOP[SEND]（ループ・センド）端子、LOOP[RETURN]（ループリターン）端子

外部エフェクターへのループ端子です。LOOP[SEND]端子は外部エフェクターの入力へ接続します。LOOP[RETURN]端子は外部エフェクターの出力へ接続します。

注意:AD100VT/AD100VTHに、この端子は付いています。

SPEAKER OUT（スピーカー・アウト）端子、OUTPUT SELECT（アウトプット・セレクト）スイッチ

ギター・スピーカー・キャビネットを接続します。使用するキャビネットにあわせて、下記の組み合わせとOUTPUT SELECTスイッチの設定で使用してください。

注意:AD100VTHのみに、この端子とスイッチは付いています。

スピーカー・キャビネットのインピーダンスと数	AD100VTH OUTPUT SELECTスイッチ	最大出力（インピーダンス）
8Ωx2	Serie	50W（16Ω）
16Ωx1	Parall	50W（16Ω）
8Ωx1+4Ωx1	Serie	75W（12Ω）
4Ωx2	Serie	100W（8Ω）
8Ωx1	Parall	100W（8Ω）
16Ωx2	Parall	100W（8Ω）

重要:上記の組み合わせ以外の接続を行うと、スピーカーやアンプを破損する恐れがあります。

- 定格入力が100ワットに満たないスピーカー・キャビネットを接続しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。
- スピーカー・キャビネットを接続するときは、必ずスピーカー・ケーブルを使用してください。ギターとアンプを接続するシールド線を使わないでください。
- ケーブルを接続するときは、必ず電源をOFFの状態で行ってください。電源をONのまま、ケーブルを抜き差しするとアンプが壊れる原因となります。

PRESENCE（プレゼンス）コントロール

接続するスピーカー・キャビネットの音色に合わせて、プレゼンスの量を調整します。

注意:プレゼンスの設定はプログラムされません。

注意:AD100VTHのみに、このツマミは付いています。

3 つの動作モードについて

本機は１１種類のプリセット・プログラムを内蔵しています。これらは本機をプリセット・モードに切り換える（といってもスイッチを１つ押すだけですが）と、[AMP]セレクターを回すだけで簡単に呼び出すことができます。

また、書き換え可能な2つのチャンネル・プログラムを持ち、[CHANNEL]スイッチやフット・スイッチによって切り換えることができます。

プリセット・モード（プリセット・プログラムの呼出し）

プリセット・モードでは、[AMP]セレクターを回すことによって、各アンプ・タイプ毎の代表的なサウンドに設定されたプリセット・プログラムが呼び出され、GAIN、VOLUME、TREBLE、MIDDLE、BASSやエフェクト等の設定が自動的に切り替わります。

プリセット・モードへの切り換え

PRESET LEDが消灯しているときは、プリセット・モードではありません。[PRESET]スイッチを押すとPRESET LEDが点灯し、プリセット・モードに切り替わります。

注意: CH1/CH2 LEDが点滅しているとき（保存先選択中）は、[PRESET]スイッチを１度押してもPRESET LEDが点灯しない場合があります。このようなときはもう１度[PRESET]スイッチを押します。

プリセット・プログラムの呼出し

PRESET LEDが点灯している状態で、[AMP]セレクターを回します。トップ・パネル上のコントロールツマミや[EFFECTS]セレクターの位置に関係無く、各アンプ・タイプ毎に設定されたプリセット・プログラムが呼び出されます。

ヒント: エフェクトを無効にするときは、[BYPASS]スイッチを押します。BY-PASS LEDが点灯しエフェクトがバイパスされます。もう1度[BYPASS]スイッチを押すとバイパスが解除されエフェクトが有効になります。バイパスの設定はモードやプログラムを切り換えたり、電源をオフにしても保持されます。

チャンネル・セレクト・モード（チャンネル・プログラムの呼び出し）

チャンネル・セレクト・モードでは、[CHANNEL]スイッチを押すことによって、各チャンネル（CH1、CH2）毎に保存されているプログラムが呼び出され、アンプやエフェクトのすべてのパラメータが自動的に切り替わります。

チャンネル・セレクト・モードへの切り換え

CH1またはCH2 LEDが消灯しているときは、チャンネル・セレクト・モードではありません。[CHANNEL]スイッチを押すとCH1またはCH2のLEDが点灯し、チャンネル・セレクト・モードに切り替わります。

注意: CH1/CH2 LEDが点滅しているとき（保存先を選択中）は、[CHANNEL]スイッチを押してもプログラムが切り替わりません。[TAP]スイッチを押して点滅を解除します。

チャンネルの切り換え

CH1またはCH2 LEDが点灯している状態で、[CHANNEL]スイッチを押します。押すたびにチャンネルが切り替わり、トップ・パネル上のセレクターやコントロール・ツマミの位置に関係無く、各チャンネルに設定されているプログラムが呼び出されます。

ヒント: リア・パネルにオプションのVFS2デュアル・フット・スイッチを接続して使用すると、足元でチャンネルを切り替えることができます。詳しくは「VFS2デュアル・フット・スイッチによるコントロール」（p.18）を参照してください。

ヒント: エフェクトを無効にするときは、[BYPASS]スイッチを押します。BY-PASS LEDが点灯しエフェクトがバイパスされます。もう1度[BYPASS]スイッチを押すとバイパスが解除されエフェクトが有効になります。バイパスの設定はモードやプログラムを切り換えたり、電源をオフにしても保持されます。

マニュアル・モード

本機がマニュアル・モードのときは、通常のギター・アンプと同じ動作になります。
つまり、トップ・パネル上のすべてのセレクターやコントロール・ツマミの位置がそのままサウンドに反映されます（[EDIT]ツマミを除く）。

マニュアル・モードへの切り換え

MANUAL LEDが消灯しているときは、マニュアル・モードではありません。[MANUAL]スイッチを押すとMANUAL LEDが点灯し、マニュアル・モードに切り替わります。

注意: CH1/CH2 LEDが点滅しているとき（保存先を選択中）は、[MANUAL]スイッチを１度押してもMANUAL LEDが点灯しない場合があります。このようなときはもう１度[MANUAL]スイッチを押します。

注意: マニュアル・モードでは、ツマミの位置によって確定しないパラメータ（エフェクト・パラメータ、ノイズ・リダクションの設定）を変更すると、その設定は自動的に保存されます。次回マニュアル・モードに入ったときにはその設定が呼び出されます。ただし、[EFFECTS]セレクターの位置が前回と変っていると、エフェクト・パラメータは各タイプ毎の初期値が読み込まれます。

ヒント: エフェクトを無効にするときは、[BYPASS]スイッチを押します。BYPASS LEDが点灯しエフェクトがバイパスされます。もう1度[BYPASS]スイッチを押すとバイパスが解除されエフェクトが有効になります。バイパスの設定はモードを切り換えたり、電源をオフにしても保持されます。

音作りと保存

音作りの方法には、作りたい音に近いプリセット・プログラムなど既存のプログラムを元にして、必要な部分を変更して目的の音を作り上げていく方法と、白紙の状態（ゼロ）から作り上げていく方法があります。

音作り

ここでは白紙の状態（ゼロ）から作る方法を説明します。

1. プリセットまたはチャンネル・セレクト・モードで任意のプログラムを選ぶか、マニュアル・モードにします。

ヒント: ゼロから音作りをしますので、どのプログラムでもかまいません。

2. [BYPASS]スイッチを使ってエフェクトをバイパスします（BYPASS LED点灯）。
エフェクトを使用する場合は最後に追加します。

3. [AMP]セレクターで、使用したいアンプを選びます。

ヒント: アンプ・タイプの詳細については「アンプ/エフェクトの説明」（p.19）を参照してください。

4. [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]など、トップ・パネルのツマミを調整します。

5. [TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを操作して、ノイズ・リダクションの設定をします。この設定もプログラムに保存されます。詳細については「ノイズ・リダクションの調整」（p.15）を参照してください。

ヒント: ノイズ・リダクションはギターを弾いていないときにノイズが気にならない程度に調整します。

6. エフェクトを加えるには、[BYPASS]スイッチをもう一度押してバイパスを解除します（BYPASS LED消灯）。

7. 任意のエフェクトを選択し調整します。
例えば、ディレイを加える場合、[EFFECTS]セレクターを回して“ DELAY ”を選択します。もともと“ DELAY ”になっていた場合は、[EFFECTS]セレクターを回して1度他のエフェクト・タイプに切り換えてから、再度“ DELAY ”を選択します。

[TAP]スイッチや[EDIT]ツマミを使って、ディレイ・タイムやディレイ・レベル（ディレイ音のミックス量）を調整します。

DELAY TIME: [TAP]スイッチを2回押す（押した間隔でタイムを設定）か、[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回す。（**EDIT 2**）
DELAY LEVEL: （何も押さずに）[EDIT]を回す。（**EDIT 1**）
DELAY FEEDBACK: [BYPASS]スイッチを押しながら[EDIT]を回す。（**EDIT 3**）

ヒント: エフェクト・タイプの詳細については「アンプ/エフェクトの説明」（p.19）を参照してください。

8. 気に入ったサウンドに仕上がったら保存してください。

注意: プリセット/チャンネル・セレクト・モードでは、保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると音作りをしていた内容は消えてしまいます。

注意: エフェクト・バイパスの設定はプログラムには保存されません。

ノイズ・リダクションの調整

ノイズを抑える効果を設定します。

ヒント: アンプ・タイプに" NUMETAL "や" US HIGAIN "などのハイ・ゲイン設定を使用する場合はノイズ・リダクションをおすすめします。ハイ・ゲインはノイズにつながるからです。

注意: ノイズ・リダクションは、プログラムごとに設定します。プリセット/チャンネル・セレクト・モードでは、保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり、電源を切ると変更した内容は消えてしまいます。

1. [BYPASS]スイッチを押してBYPASS LEDを点灯させます。

2. [TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回してノイズ・リダクションの感度を調整します。右に回すほど、ノイズを抑える効果が強くなります。左に回しきるとノイズ・リダクションがオフになり、効果がなくなります。

注意: 使用するギターによっては、ノイズ・リダクションの感度を上げすぎると、音が途切れることがあります。

3. エフェクトを使用する場合は[BYPASS]スイッチを押して、BYPASS LEDを消灯します。

プログラムを保存する

気に入ったサウンドに仕上がったら保存（ライト）します。

1. [WRITE]スイッチを押します。CH1またはCH2のLEDが点滅します。

2. [CHANNEL]スイッチを押して保存先のチャンネルを選びます。点滅しているチャンネルが保存先となります。

   ヒント: ライト操作をキャンセルする場合は、ここで[TAP]スイッチを押します。LEDの点滅が停止し、元のモードに戻ります。

3. [WRITE]スイッチをもう1度押します。これでプログラムがチャンネルに保存され、保存先のLED が点灯に戻ります。

   注意: プログラムは上書き保存されます。手順2で選んだチャンネルの元のプログラムは消去されます。

   注意: エフェクト・バイパスの設定はプログラムには保存されません。

   注意: プリセット/チャンネル・セレクト・モードで音作りをしている場合は、保存しないで他のプログラムやマニュアルに切り替えたり電源を切ると、音作りをしていた内容は消えてしまいます。

プログラムに保存されている設定（オリジナル・バリュー）を確認する

プリセット/チャンネル・プログラムに保存されているパラメータの値は、オリジナル・バリュー表示によって確認できます。

ツマミでパラメータの値を変更しているとき、その値がプログラムに保存されている値（オリジナル・バリュー）と一致すると、プリセット・モード時はPRESET LEDが、チャンネル・セレクト・モード時は選択されているチャンネルのLEDが一瞬消灯します。

ヒント: 気に入ったプログラムを見つけ、それがどんな設定になっているか知りたい場合は、このオリジナル・バリュー表示を活用するとよいでしょう。

注意: トップ・パネルの[MASTER] ボリュームとリア・パネルの[POWER LEVEL]コントロール、[PRESENCE]コントロール（AD100VTH）はプログラムされないため、オリジナル・バリュー表示は行ないません。また、マニュアル・モード時はオリジナル・バリュー表示は行ないません。

工場出荷時の状態に戻すには

本機のすべての設定を工場出荷時の状態に初期化する方法を説明します。

注意: この操作を完了するとチャンネルに保存してあったプログラムはすべて消去され、出荷時のプログラムに初期化されます。

注意: マニュアル・モードで行なった、エフェクトやノイズ・リダクションの設定もすべて消去されます。

1. 電源を一旦OFFにします。

2. [CHANNEL]、[WRITE]の2つのスイッチを押しながら電源をONにします。CH1、CH2のLEDが点滅し始めたら、押していた2つのスイッチを離します。

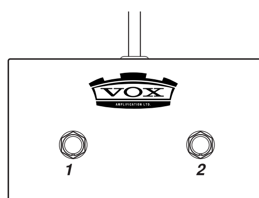
   ヒント: 初期化の作業を中止するときは、ここで[TAP]スイッチを押します。

3. [WRITE]スイッチを押すと、CH1、CH2のLEDが点滅から点灯に変ります。1〜2秒ほどで初期化が完了し、プリセット・モードに切り替わります。

   注意: 初期化中は、絶対に電源をOFFにしないでください。

VFS2 デュアル・フットスイッチによるコントロール

オプション（別売※）のVFS2デュアル・フットスイッチをリアパネルのFOOT SW端子に接続すると、プログラムの切り替えやエフェクト・バイパスのオン/オフを足元でコントロールできるようになります。



左側のスイッチ（スイッチ1）：
チャンネル・プログラムの切り換え
右側のスイッチ（スイッチ2）：
バイパスのオン/オフ、またはマニュアル・モードへの切り換え

チャンネル・プログラムの切り換え（スイッチ1）

VFS2の左側のスイッチ（スイッチ1）を押すと、押すたびにCH1、CH2が切り替わります。

注意: スイッチ1はトップ・パネルのチャンネル・セレクト・スイッチと同じ働きをします。プリセット・モードやマニュアル・モードでスイッチ1を押すとチャンネル・セレクト・モードに切り替わります。また、プログラム保存先選択中（CH1またはCH2のLEDが点滅中）にスイッチ1を押すと保存先が切り替わります。

エフェクト・バイパスのオン/オフ（スイッチ2）

トップ・パネルの[BYPASS]スイッチを押しながらVFS2の右側のスイッチ（スイッチ2）を押します（スイッチ2の機能をバイパスオン/オフに設定）。以降、スイッチ2を押すたびにエフェクト・バイパスのオン/オフが切り替わります。

ヒント: スイッチ2の機能設定は本機のメモリに記憶されます。モードやプログラムを切り換えたり電源をオフにしても設定は保持されます。

マニュアル・モードへの切り換え（スイッチ2）

トップ・パネルの[MANUAL]スイッチを押しながらVFS2の右側のスイッチ（スイッチ2）を押します（スイッチ2の機能をマニュアル・モードへの切り換えに設定）。以降、スイッチ2を押すとマニュアル・モードに切り替わります。

ヒント: スイッチ2の機能設定は本機のメモリに記憶されます。モードやプログラムを切り換えたり電源をオフにしても設定は保持されます。

アンプ / エフェクトの説明

ここでは１１種類のアンプ･モデルとエフェクトについて説明します。

アンプ・モデル

ここでは、素晴しいサウンドを誇る数々のアンプの中からValvetronixアンプのために特別に選んだ１１種類のアンプ･モデルについて説明します。モデルとなるアンプを選択するには、かなりの時間を費やし、スタッフ同士の意見交換、プロ･ミュージシャンやギター専門家のアドバイス、数限りない試聴、試奏を繰り返しました。こうして選んだアンプはベストの中のベストであるだけでなく、まったく素朴でクリーンなサウンドから、とてつもなくオーバードライブのかかったサウンドまで、幅広い範囲の音色を網羅しています。

コントロール類

本機のトップ･パネルには、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]、[GAIN]、[VOLUME]、[MASTER]の各コントロールがありますが、モデルとなったアンプには必ずしもこれらのコントロール類がすべて搭載されているわけではありません。そこで、元のアンプにないツマミをそのまま遊ばせておくのももったいないので、アンプ･モデルの再現性を損なうことなく、この5つのコントロールに機能を割り当てました。つまり、オリジナルのアンプの音色を正確に再現するだけでなく、更に自在なコントロールができるわけです。
たとえばオリジナルのアンプにゲイン･コントロールがない場合（AC15、AC30TB、UK '70S、BLACK 2x12、TWEED4x10）、Valvetronixアンプの[GAIN]コントロールではオリジナルのボリューム･コントロールの役目を果たします。ということは3つのボリューム･コントロール（[VOLUME]、[GAIN]、[MASTER]）が使えるわけです。[MASTER]ボリュームはアンプ全体の音量のみを設定しますが、[VOLUME]コントロール（[GAIN]コントロールの横）は、もう一つの「マスター･ボリューム」として、各プログラム間の音量バランスが調整できます。
オリジナルのアンプに3バンドEQが全部そろっていない場合は、実際のアンプにないコントロールを１２時の方向にしたときに「ニュートラル」、つまりオリジナルのサウンドにマッチします。設定を変えることによって自在な音色調整ができることになります。以下はトレブル、ミドル、ベースの各コントロールが全部そろっていないアンプです。

アンプ･オリジナルのトーン･コントロール

アンプ	オリジナルのトーン･コントロール
AC15	ベース･カット･スイッチ
AC30TB	トレブル、ベース･コントロール

真空管の話

真空管のことをイギリスでは「バルブ」、アメリカでは「チューブ」と呼びます。このように国によって名称は違いますが、Valvetronixアンプの11個のアンプ・モデルの心臓にはいずれも、あの真空のガラス管が息づいています。本書では、各アンプの故郷を尊重して、イギリス生まれのアンプは「バルブ」、アメリカ生まれのアンプは「チューブ」と呼んでいます。

Q&A
ECC83プリアンプ・バルブと12AX7プリアンプ・チューブの違いは?
まったく同じです。ECC83はイギリス名、12AX7(別名7025)はアメリカ名です。

パワーアンプの精度

すでに述べたように、優れたチューブアンプのパワー段での処理が、アンプのサウンド、ドライブ感、動作に大きな影響を与えています。パワーアンプの動作(A、A B 級)、真空管の種類(EL84、EL34、6L6、6V6等)、負帰還回路特性、パワー段のスピーカーとの応答性(ダンピング特性)、これらの要素が音色に重要な役割を果たしています。米国特許取得済みのValve Reactor技術を採用することによって、このような要素が忠実に再現できるのです。このフル・チューブアンプと同じ回路構成を持つValve Reactor技術によって、モデルとなったアンプのフル・チューブ・パワー段の独特の様々な回路特性をシミュレートして、チューブアンプに固有の重要な特性が忠実に、そして正確に再現します。たとえばアンプ・モデルのAC30TBを選択すると、本機のValve Reactorパワー段はA級、無帰還という設定に切り替わります。更にリアパネルのパワー・レベル・コントロールを使って、演奏する部屋のサイズに最適な出力ワット数を調整できます(AD15VTを除く)。

音量アップ

どのチューブアンプにも共通したことがあります。音量を最高にアップしたときにベストなサウンドになるということです。デシベル値が高いほど、いいサウンドになるというのではなく、真空管の負荷がかかるほど独特のトーンが生じてサウンド全体に広がり感が出るのです。Valve Reactorパワーアンプの精度のおかげで、Valvetronixアンプについても同じことが言えます。ですから、[VOLUME]、[MASTER] コントロールを適度に上げて使うことをお奨めします。上述したようにパワー・レベル・コントロールもあるので(AD15VTを除く)、自分の部屋、ガレージ、スタジオ等、弾く場所に合ったワット数が設定できます。
次に各アンプ・モデルについて説明しましょう。

1. BOUTIQUE CL

完全受注生産でハンド・メイドされるオーバードライブ・スペシャルと名付けられた高級アンプのクリーンチャンネルをモデリングしました。最高級のブティック・アンプを何種類か試聴しましたが、これがダントツでした。丸みのある美しい低域、立ち上がりの早いミッド・レンジのアタック、甘美なトレブル音は、シングル・コイル・ピックアップに最適です。また、ピッキング・スタイルやピック・アップの選択に対する反応も早く、コードを弾いたときのサウンドはしびれるように優雅で華やかです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x3(プリアンプ内)、6L6 x4(パワーアンプ内)

2. BLACK 2x12

モデルとなったデュアル・チャンネルのフロント・ブラック・アンプはカントリーやブルース・プレイヤー必須の2x12コンボです。深みのあるピアノ風ベース音を含んだタイトなクリーンサウンドで、トーンが純清だけでなく、特にシングル・コイル・ピックアップで使用するとクラシックなシカゴのブルース・トーンを生み出します。オリジナルを忠実に再現するため、ボリュームをいっぱいに上げると低域が「しゃがれた」サウンドになりますが、この場合、[BASS]は完全に絞り、[MIDDLE]はフルアップに設定してください。オリジナル・アンプのEQコントロールがプリアンプのゲイン・ステージ前に位置しているので、このように中域を上げることで、中域内のディストーションが強調され、その結果甘く艶やかなブルース・トーンが生まれます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x4 & 12AT7(別名ECC81) x2(プリアンプ内)、6L6 x4(パワーアンプ内)

3. TWEED 4x10

もともとベース・ギター用に設計された1959年製4x10コンボ・アンプをモデリングしました。スムーズで抜けの良いオーバー・ドライブ・サウンドに、6弦プレーヤー達はすぐに飛びつきました。また、ピッキングの強弱やギターのボリュームに敏感に反応します。つまり、アンプをいっぱいにドライブしているときにギター・ボリュームを落とすと、クリーンで豊かな音色が出ます。またピッキングの強弱によっては、1つ1つの音やコードのクリーン/ディストーションの程度を変えたりすることができます。

ヒント: オリジナルのアンプ同様に、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]の各トーンコントロールはセッティングによって互いに影響しあいます。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AY7 x1、12AX7 x2(プリアンプ内)、GZ34 x1(整流器)、5881s x2(パワーアンプ内)

4. AC15

素晴しいサウンドの1962年製VOX AC15のチャンネル2をモデリングしました。VOX AC15は1x12"、15Wのチューブ・コンボで1958年に発売され、VOXアンプの初デビューでした。コンパクトなキャビネット、パワー、内蔵トレモロ/ビブラート（チャンネル1のみ）、そして素晴しい音色で、当時人気のあったブリティッシュ・バンドと共に大ヒットになりました。このアンプのユニークな音色は、主に無帰還A級動作のEL84出力バルブ（チューブ）を使用したことによります。このデザインのため、パワーとディストーションが増し、アンプのボリュームを上げるほどますます顕著になる第2、第3倍音で更に厚みがかかりました。本機のパワー段では、AC15やAC30TBのVOXモデルを選ぶとValve Reactor技術によって自動的に無帰還A級動作に設定されます。
AC15は「シンプル」の極みで、モデリング対象となったチャンネル2にはボリュームとブリリアンス（ベース・カット）、それからトップ・カットのコントロールしかありません。
本機でAC15を選択すると、[GAIN]コントロールがオリジナルのボリューム・コントロールの役目を果たします。[BASS]コントロールはベース・カットとして働き、オリジナルの2点スイッチよりも音色的な幅を持たせています。トップ・カットは左に回しきった状態で使われるのが一般的なので搭載していません。[TREBLE]、[MIDDLE]コントロールはそれぞれ12 時の方向に設定すると「ニュートラル」、つまりオリジナルそのままの音色が得られます。
オリジナル・アンプのバルブ構成: EF86 x1、ECC83 x3、ECC82 x1（プリアンプ内）、EZ81 x1（整流器）、EL84 x2（パワーアンプ内）

5. AC30TB

初期のAC30はAC15と似ていましたが、4本のEL84を使用し、2倍の出力を持ち、第3のチャンネルが追加されたもので、AC15と同様、瞬く間に人気のアンプとなりました。
絶大なる成功を収めたAC30ですが、更なる音色的自由度とゲインを望むアーティストも多く、VOX社はこれに応えて、ECC83バルブ（チューブ）を追加した音色回路を開発しました。ブリリアント・チャンネルのゲインを上げ、EQとしてトレブル、ベースのトーン・コントロールを搭載したのですが、これがギター・プレーヤーたちに瞬く間にヒットとなった、と言ってもまだ過小評価です。このググッと迫る力強いサウンドは60年代中盤の多くの有名バンドのトレードマーク的サウンドになりました。
VOXは当初、この回路を「ブリリアンス・ユニット」と呼びましたが、後に「トップ・ブースト」と呼ばれて有名になりました。トップ・ブーストは最初、改造モデルにのみ導入されましたが、やがて1964年、AC30の標準仕様として搭載されるようになったのです。
[GAIN]、[TREBLE]、[BASS]コントロールは、オリジナルのボリューム、トレブル、ベース・コントロールを再現します。[MIDDLE]コントロールは12時の方向でオリジナル・サウンドとなります。
このアンプ・モデルは、スムーズかつ繊細なトップ・エンド、威厳のある野太いオーバードライブ、オリジナル・アンプをギター・プレーヤーの必須アイテムにしたA級音色を併せ持つ、豊かで華やかなクリーン・サウンドを生み出します。
オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x5、ECC82 x1（プリアンプ内）、GZ34 x1（整流器）、EL84 x4（パワーアンプ内）

6. UK '70S

1969年UK作製、100ワット、プレキシグラスのフロント、4つのインプットを持つヘッドのハイ・トレブル・チャンネルをモデリングしましたが、驚くほどリッチで、暖かくも鋭く、クリアなトーンを持っています。オリジナル・モデルにはマスター・ボリュームがなかったので、このアンプの能力を最大に生かすためにゲインをフルアップして演奏したものです。オリジナルと同じレスポンスを得る為、[VOLUME]は最大に、[MASTER]は適度に調整して、[GAIN]コントロールをフルアップすると、演奏のダイナミクスのわずかな変化にも優雅に応答する、クラシック・ロックのあの有機的なオーバードライブが瞬時に体験できます。また、ギターのボリューム・コントロールを下げると、ユニークでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x3(プリアンプ内)、EL34 x2(パワーアンプ内)

7. UK '80S

1983年、UK製100Wマスター・ボリューム付きシングル・チャンネルのヘッドをモデリングしました。アンプの音量をいっぱいに上げなくてもクランチ・トーンが生み出せるモデルです。ゲイン・コントロールをフルアップすると、80年代を制覇した、うなるような太いハード・ロックやヘビー・メタル・サウンドが得られました。オリジナルのアンプは独特のハードなクランチ・サウンドで有名になりましたが、そのサウンド一辺倒ではなく、本機のモデルもギターのボリュームを絞ると、ロックのコード・ワークに最適な、どんなミックスでも音のよく通るブライトでクリーンなサウンドが得られます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x3(プリアンプ内)、EL34 x4(パワーアンプ内)

8. UK MODERN

100Wのモダン・アンプのハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。心地よいトーンのハイ・ゲイン・プリアンプ段、UK '80Sのパワー段が持つ、うなるようなパンチの効いたファットでヘヴィーなサウンドを組み合わせています。その結果、個々の音に輪郭を持ちながらも、かなり攻撃的で鼻息の荒いモンスター・サウンドに仕上がっています。本機の[GAIN]コントロールをフルアップにすると、ローエンドはぐっと締まってパンチ力を維持しながら、ソウルフルなフィードバックにむせぶギターソロが弾けます。

オリジナル・アンプのバルブ構成: ECC83 x4(プリアンプ内)、EL34 x4(パワーアンプ内)

9. NUMETAL

猛獣のごときハイ・ゲイン・アンプのモダン・ハイ・ゲイン・チャンネルをモデリングしました。深く、ルーズなローエンド、きらめく高域、モンスターのようなゲインは、できるだけ低くチューニングしたギターや7弦ギターを振るったメタル・アクトに最適です。[GAIN]コントロールを低く設定すると、空間を広げる豊かな高域倍音によって強調された特有の明るくクリーンなサウンドを生みますが、海底よりもっと低いチューニングでニューメタルを弾くような場合はNUMETALがピッタリです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x5(プリアンプ内)、5U4G x2(整流器)、6L6 x4(パワーアンプ内)

10. US HIGAIN

蛇皮でカバーされた1991年製100Wアンプ・ヘッドのオーバー・ドライブ・チャンネルをモデリングしました。オープンなローエンドと圧縮した中/高域を組み合わせた、パワフルでヘヴィーなサウンドで、どんな極端なゲイン設定でも芯の通った迫力のあるトーンになります。この特性は世界の有名なプレーヤーの間で好まれています。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x4（プリアンプ内）、6L6 x4（パワーアンプ内）

11. BOUTIQUE OD

非常に珍しく高価で評判の高い100Wヘッドで、BOUTIQUE CLのオリジナルと同じ設計者による、別のオーバードライブ・スペシャルのオーバードライブ・チャンネルをモデリングしました。完全受注生産でハンド・メイドされるこのアンプは非常に魅力的なオーバー・ドライブ・トーンを持ちサックスのようなレガート・ソロに最適です。本機の[GAIN]コントロールを上げたときの素晴しいサスティーンはスムーズでソウルフルです。

オリジナル・アンプのチューブ構成: 12AX7 x3（プリアンプ内）、EL34 x4（パワーアンプ内）

エフェクト

本機では最もポピュラーな11種類のエフェクト（複合エフェクト）を用意しています。モジュレーション・エフェクトのSPEEDパラメータや、ディレイ/リバーブのTIMEパラメータを、[TAP]スイッチを２度押すことで簡単に設定できます。また[EDIT]ツマミでおもなパラメータを設定できるほか、[TAP]スイッチや[BYPASS]スイッチをホールド（押し続けること）しながら[EDIT]ツマミを回すことで、更に細かな設定が可能です。

EFFECTS	TAP	EDIT 1(EDIT)	EDIT 2 (TAP+EDIT)	EDIT 3 (BYPASS+EDIT)
AUTO WAH	----	WAH SENS	WAH ATTACK	WAH POLARITY
COMP	----	COMP SENS	COMP ATTACK	
COMP+PHASER	PHASER SPEED	COMP SENS	PHASER SPEED	PHASER RESONANCE
COMP+CHORUS	CHORUS SPEED	COMP SENS	CHORUS SPEED	CHORUS MIX
CHORUS+DELAY	DELAY TIME	DELAY LEVEL	DELAY TIME	CHORUS MIX
CHORUS+REVERB	CHORUS SPEED	REVERB LEVEL	CHORUS SPEED	CHORUS MIX
FLANGER+REVERB	FLANGER SPEED	REVERB LEVEL	FLANGER SPEED	FLANGER RESONANCE
TREMOLO+REVERB	TREMOLO SPEED	REVERB LEVEL	TREMOLO SPEED	TREMOLO DEPTH
ROTARY+REVERB	ROTARY SPEED	REVERB LEVEL	ROTARY SPEED	ROTARY SENS
DELAY	DELAY TIME	DELAY LEVEL	DELAY TIME	DELAY FEEDBACK
REVERB	REVERB TIME	REVERB LEVEL	REVERB TIME	REVERB HIDAMP

注意: エフェクト・パラメータの設定はバイパス・オフ（BYPASS LED消灯）状態で行なってください。バイパス・オン（BYPASS LED点灯）時に[TAP]スイッチを押しながら[EDIT]ツマミを回すとエフェクト・パラメータではなく、ノイズ・リダクションの感度調整となります。

ヒント: チャンネル・プログラムでエフェクトを使用しないときは、エフェクトのタイプをDELAYまたはREVERBに設定し[EDIT]ツマミを左に回しきりDELAY LEVELまたはREVERB LEVELを最少にしてください。

AUTO WAH

ピッキングのダイナミクス、つまり弦を弾く強さに追従して自動的に効果のかかるオート・ワウのモデリングです。クセがあるけれど便利なエフェクトです。

EDIT1[EDIT]	" SENS "	ギターの音量に対する動作感度を調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" ATTACK "	反応の速さを調整します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	" POLARITY "	動作方向を調整します。

COMP

粒のそろったスムーズでクリーンなフレーズを弾きたいとき、リードギターにほんのわずかなサスティーンをかけたいときはCOMPが最適です。パーカッシブなクリーンサウンドで人気の高いコンプレッサー・ペダルをモデリングしました。80年代、90年代のポップやファンクのリズムにピッタリです。また、歌うようなメローなサスティーンも得られます。

EDIT1[EDIT]	" SENS "	感度を調整します。右に回すほどコンプレッション、サスティーンの量が増加します。左に回しきるとOFFになります。
EDIT2[TAP+EDIT]	" ATTACK "	アタックの強さを調整します。

ヒント: COMP+PHASER、COMP+CHORUSのコンビネーション・エフェクトでは、ATTACKパラメータは最適な値に設定されています。

PHASER

バナナ色のボックスに入った人気の高いアナログ・フェイザーのモデリングです。

TAP	" SPEED "	モジュレーションのスピードを0.1…10 [Hz]の範囲で調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" SPEED "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	" RESONANCE "	レゾナンスの量を調整します。

CHORUS

スタンダードの豊かなアナログ・コーラス・ユニットのモデリングです。

TAP	" SPEED "	モジュレーションのスピードを 0.1…10 [Hz] の範囲で調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" SPEED "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。

ヒント: CHORUS+DELAYのコンビネーション・エフェクトではSPEEDパラメータは最適な値に設定されています。

EDIT3[BYPASS+EDIT]	" MIX "	エフェクト音のミックス量を調整します。

FLANGER

「両手タッピングのゴッドファーザー」と多くの人が崇める現代の有名ギタリストを生んだ、真にクラシックなアナログ・フランジャーのモデリングです。

TAP	" SPEED "	モジュレーションのスピードを0.1…10 [Hz]の範囲で調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" SPEED "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	" RESONANCE "	レゾナンスの量を調整します。

TREMOLO

BLACK 2x12に搭載されている評判の高いトレモロ回路のモデリングです。

TAP	" SPEED "	モジュレーションのスピードを2.5...10 [Hz]の範囲で調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" SPEED "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	" DEPTH "	トレモロの深さを調整します。

ROTARY

ロータリー・スピーカーのモデリングです。

TAP	" SPEED "	モジュレーションのスピードを0.8...10 [Hz]の範囲で調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" SPEED "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	" SENS "	このパラメータを設定すると、ギターの音量に応じて自動的に回転スピードを変化させることができます。この機能を使う場合、SPEEDは遅めに設定してください。

DELAY

評判の高いアナログ・テープ・エコーのモデリングです。もともとエコーは再生ヘッドで作られ、ディレイ・タイムはモーターのスピードを変化させて設定します。プロ・ミュージシャンがこの「原始的な」テープ・エコーを好むのは、温かく暗いエコーを生むからです。

TAP	" TIME "	1...1486[ms]の範囲でディレイ・タイムを設定します。
EDIT1[EDIT]	" MIX "	ディレイ音のミックス量を調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" TIME "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3[BYPASS+EDIT]	" FEEDBACK "	フィードバックの量を調整します。

ヒント: CHORUS+DELAYのコンビネーション・エフェクトではFEEDBACKパラメータは最適な値に設定されています。

注意: FEEDBACKパラメータを上げすぎると収拾がつかなくなりますので注意してください。

REVERB

ギターアンプ内蔵のスプリング・リバーブを再現しました。

TAP	" TIME "	0.8...8[秒]の範囲でリバーブタイムを設定します。
EDIT1[EDIT]	" MIX "	リバーブ音のミックス量を調整します。
EDIT2[TAP+EDIT]	" TIME "	パラメータをツマミで細かく設定する場合に使用します。
EDIT3 [BYPASS+EDIT]	" HI DAMP "	高域の減衰量を調整します。

ヒント: コンビネーション・エフェクトではTIME、HI DAMPパラメータは最適な値に設定されています。

故障とお思いになる前に

1. [POWER]スイッチをONにしても電源が入らない

- リア・パネルのAC電源端子に電源コードが接続されていますか？
- コンセントに電源コードが接続されていますか？
- コンセントが故障していませんか？
- 電源コードが損傷していませんか？

2. アンプから音が出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか？
- ギター・シールドが正しく接続されていますか？
- ギター・シールドが断線していませんか？
- （AD100VTHの場合）スピーカー・ケーブルが正しく接続されていますか？
- （AD100VTHの場合）スピーカー・ケーブルが断線していませんか？
- トップ・パネルの[MASTER]ボリュームが小さい値になっていませんか？
- リア・パネルのLINE/PHONE端子にヘッドホンやケーブルが接続されていませんか？
  その場合は接続を外してください。
- （AD50VT/AD100VTの場合）リア・パネルの[EXTERNAL SPEAKER OUT]端子にケーブルが接続されていませんか？
  外部スピーカーを使用しない場合は接続を外してください。
  接続した外部スピーカーから音が出ない場合は、スピーカー・ケーブル、外部スピーカーが断線したり故障していないかを確認してください。
- [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの設定を確認してください。アンプ・タイプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。
- マニュアル・モードの場合（MANUAL LED 点灯）、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールが0または最小値になっていませんか？
- （AD100VT/AD100VTHの場合）リア・パネルのLOOP[RETURN]端子だけにケーブルを接続していませんか？
  LOOP[SEND]端子に接続したケーブルは、外部エフェクトに接続し、そのエフェクターの出力をLOOP[RETURN]端子に接続してください。
  外部エフェクトの出力レベルを適度な音量に調節してください。

3. アンプの音量が十分出ない

- ギターのボリュームを絞っていませんか？
- [MASTER]ボリュームが下がっていませんか？
- （AD30VT/AD50VT/AD100VT/AD100VTHの場合）リア・パネルの[POWER LEVEL]を絞っていませんか？
- [GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの設定を確認してください。アンプ・タイプによっては[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールの値が小さいと、オリジナル・アンプの回路と同様、アンプから音が出ない場合があります。
- マニュアル・モードの場合（MANUAL LED 点灯）、[GAIN]、[VOLUME]、[TREBLE]、[MIDDLE]、[BASS]コントロールが小さい値になっていませんか？

4. LINE/PHONE端子から音が出ない

- トップ・パネルの[MASTER] ボリュームが小さい値になっていませんか?
- 音がアンプから出力されているか確認してください。
  このとき、LINE/PHONE端子にヘッドホンやケーブルが接続されていると内蔵スピーカーから音が出ませんので、LINE/PHONE端子への接続を外してください。
  アンプからサウンドが出力されていない場合は、前述の「アンプから音がでない」を参照してください。
  アンプからサウンドが出力されている場合は、ヘッドホン、接続ケーブルが故障/断線していないか確認してください。

5. エフェクトがかからない

- BYPASS LEDが点灯していませんか?
  点灯している場合、エフェクトがバイパスされています。[BYPASS] スイッチを押してバイパスを解除してください。BYPASS LEDは消灯します。
- [EDIT]ツマミの設定が小さい値になっていませんか?
  [EDIT]ツマミを調整してください。

仕様

アンプ・タイプ数: 11
エフェクト・タイプ数:11
　ノイズ・リダクション: 1
プログラム数: プリセット11、チャンネル2
入出力端子
　トップ・パネル: INPUT端子x1
　リア・パネル: FOOT SW端子x1、LINE/PHONE端子x1
　(AD50VT/AD100VTのみ) EXTERNAL SPEAKER OUT端子x1
　(AD100VT/AD100VTHのみ) LOOP SEND端子x1、LOOP RETURN端子x1
　(AD100VTHのみ) SPEAKER OUT端子x2
パワーアンプ出力
　AD15VT: 最大15W RMS@ 8Ω
　AD30VT: 最大30W RMS@ 8Ω
　AD50VT: 最大50W RMS@ 8Ω
　AD100VT/AD100VTH: 最大100W RMS@ 8Ω
スピーカー
　AD15VT: VOXオリジナル(8inch 8Ω) x 1
　AD30VT: VOXオリジナル(10inch 8Ω) x 1
　AD50VT: CELESTION社製 VOXオリジナル(12inch 8Ω) x 1
　AD100VT: VOXオリジナル(12inch 16Ω) x 2
信号処理
　A/D変換: 24bit、D/A変換: 24bit、サンプリング周波数: 44.1KHz
電源: 100VAC、50/60Hz
消費電力
　AD15VT: 23W
　AD30VT: 45W
　AD50VT: 52W
　AD100VT: 100W
　AD100VTH: 100W
外形寸法(W x D x H)
　AD15VT: 428 x 224 x 395(mm)
　AD30VT: 456 x 224 x 430(mm)
　AD50VT: 578 x 265 x 485(mm)
　AD100VT: 684 x 268 x 553(mm)
　AD100VTH: 572 x 268 x 224(mm)
重量
　AD15VT: 10 kg
　AD30VT: 12 kg
　AD50VT: 20 kg
　AD100VT: 29 kg
　AD100VTH: 11.5 kg
付属品: 電源コード、スピーカー・ケーブル(AD100VTHのみ)
オプション(別売): VFS2 デュアル・フット・スイッチ

仕様および外観は改良のため予告無く変更される場合があります。

URL = http://www.voxamps.co.uk

プログラム・シート

設定をメモするためのシートです。好みの音が作れたらその設定を書き留めましょう。
下のプログラム・シートはコピーして使用することをおすすめします。
NRやPOWER LEVELコントロール（リア・パネル）の設定も忘れずに書き留めてください。

PROGRAM NAME:

AMP GAIN VOLUME TREBLE MIDDLE BASS EFFECTS MASTER

AC30TB UK '70S UK '80S AC15 UK MODERN TWEED 4x10 NUMETAL BLACK 2x12 US HIGAIN BOUTIQUE CL BOUTIQUE OD

CHORUS +DELAY CHORUS +REVERB FLANGER +REVERB COMP +CHORUS TREMOLO +REVERB COMP +PHASER ROTARY +REVERB COMP DELAY AUTO WAH REVERB

PRESET MANUAL CH1 CH2 WRITE
PRESET MANUAL CHANNEL PROGRAM
VOX AD50VT
TAP EDIT 1 BYPASS
HOLD EDIT2 HOLD EDIT3

EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

PROGRAM NAME:

AMP GAIN VOLUME TREBLE MIDDLE BASS EFFECTS MASTER

AC30TB UK '70S UK '80S AC15 UK MODERN TWEED 4x10 NUMETAL BLACK 2x12 US HIGAIN BOUTIQUE CL BOUTIQUE OD

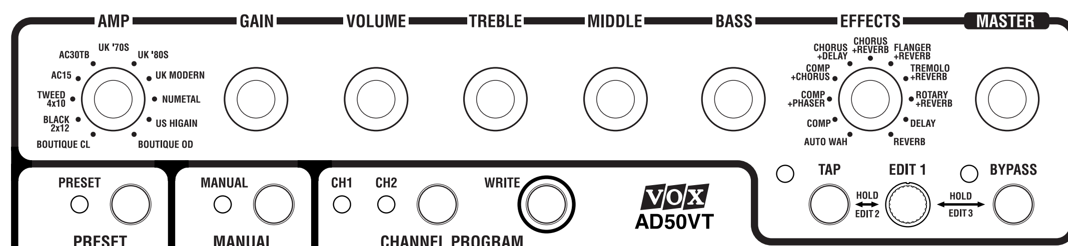
CHORUS +DELAY CHORUS +REVERB FLANGER +REVERB COMP +CHORUS TREMOLO +REVERB COMP +PHASER ROTARY +REVERB COMP DELAY AUTO WAH REVERB

PRESET MANUAL CH1 CH2 WRITE
PRESET MANUAL CHANNEL PROGRAM
VOX AD50VT
TAP EDIT 1 BYPASS
HOLD EDIT2 HOLD EDIT3

EDIT2(TAP + EDIT): /TAP	EDIT3(BYPASS + EDIT):	NR (NOISE REDUCTION):	POWER LEVEL

NOTE:

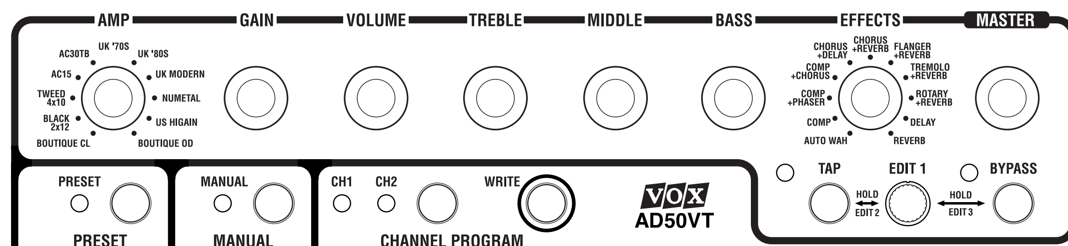
PROGRAM NAME:



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP
EDIT3(BYPASS + EDIT):
NR (NOISE REDUCTION):
POWER LEVEL

NOTE:

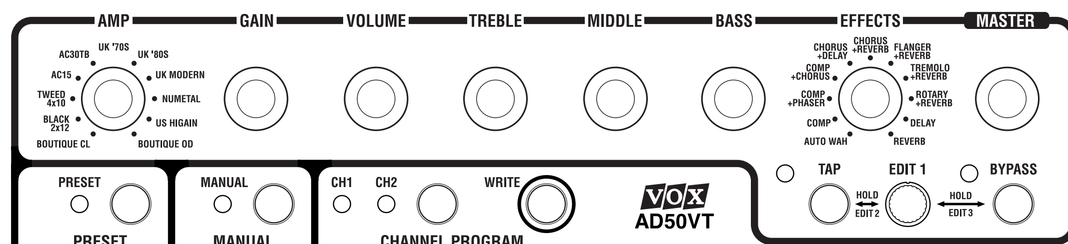
PROGRAM NAME:



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP
EDIT3(BYPASS + EDIT):
NR (NOISE REDUCTION):
POWER LEVEL

NOTE:

PROGRAM NAME:



EDIT2(TAP + EDIT): /TAP
EDIT3(BYPASS + EDIT):
NR (NOISE REDUCTION):
POWER LEVEL

NOTE:

AD15VT / AD30VT /
AD50VT / AD100VT / AD100VTH

J 5



VOX AMPLIFICATION LTD. 9 Newmarket Court, Kingston, Milton Keynes, MK10 OAU, UK http://www.voxamps.co.uk/